

「関西の活かしたい自然エリア6（琵琶湖・淀川水系） エコツアー」概要

○エコツアーの目的

複数の府県域をまたぐ地域で、自然観察、自然の恵みの気付き等を目的とするツアーを実施することにより、「関西の活かしたい自然エリア」が行政、旅行会社、活動団体等に活用される足がかりとする。

○開催日

平成 29 年（2017 年）2 月 1 日（水）

○参加者

25 名（旅行会社 4 名、活動団体 4 名、研究者 4 名、自治体 7 名、事務局 6 名）

○目的地・スケジュール

時間	目的地等	所在地	テーマ
9:10 発	南草津駅	滋賀県草津市	
9:40 着 10:55 発	琵琶湖博物館	滋賀県草津市	琵琶湖の生態系について
11:20 着 12:30 発	あやめ荘 NPO 家棟川流域観光船	滋賀県野洲市	琵琶湖の湖魚料理等（昼食） 琵琶湖の環境や歴史について
13:20 着 13:55 発	瀬田川洗堰 （水のめぐみ館アクア琵琶）	滋賀県大津市	琵琶湖・淀川の治水、 自然環境の歴史
15:00 着 15:55 発	鵜殿のヨシ原	大阪府高槻市	鵜殿の歴史・自然・生態系の説明 ヨシと人の暮らしの関わり
16:25 着 17:25 発	大阪府立環境農林水産総合 研究所 水生生物センター	大阪府 寝屋川市	淀川の生態系等 ヨシ笛づくり
17:55 着	大阪駅	大阪市	



関西の活かしたいエリア6（琵琶湖・淀川水系）

○ツアーの様子

1. 琵琶湖博物館



講義内容



水族展示物



琵琶湖・淀川水系の床面地図

セミナー室で、琵琶湖博物館の学芸員から生物多様性、関西の活かしたい自然エリア、本ツアーの目的、博物館の役割等を解説。

その後、水族展示を見学しながら、博物館の展示物やエコツアーでの活用方法について解説。

2. あやめ荘

あやめ荘で琵琶湖の湖魚料理(小鮎煮、うろり、えび豆、鮒寿司、わかさぎの天ぷら、しじみ汁等)をいただいた。食事後、NPO 法人家棟川流域観光船の松沢様より、琵琶湖の漁の移り変わり、観光船の紹介、家棟川のみどころ等の説明を受けた。



あやめ荘 湖魚料理



NPO 法人家棟川流域観光船

3. 瀬田川洗堰（水のめぐみ館アクア琵琶）

水のめぐみ館アクア琵琶の映像ホールで、琵琶湖河川事務所の今中様から、琵琶湖・淀川水系の水害・治水の歴史、洗堰の建設目的と水位調節の説明を受けた。その後、展示コーナーを見学し、治水事業や生態系保全に配慮した水位調節のパネルを前に解説を聞いた。



映像ホールでの講演



展示コーナー

4. 鶴殿のヨシ原

鶴殿に到着後、バスの車中と屋外で淀川河川事務所から鶴殿の自然環境、ヨシ原保全事業の説明を受けた。その後、淀川河川レンジャーの実演指導のもと、参加者全員がヨシ刈を体験した。その後、バス車内で、ヨシと人の暮らし(文化・産業)との関係の説明を聞き、箏楽の生演奏を鑑賞した。



ヨシ原保全事業地



ヨシ刈り体験

5. ヨシ笛づくり

水生生物センターの研修室で、参加者は4つの班に分かれ、淀川河川レンジャーの方々の説明を受け、ヨシ笛作りに励んだ。30分程度の時間であったが、概ね音が鳴る笛に仕上がっていた。



ヨシ笛工作

6. 水生生物センター

水生生物センターより、敷地内のビオトープや池の紹介と利用実績の説明を聞いた後、展示室で淀川水系に生息している水生生物（イタセンパラ）を見学した。その後、水生生物センターが行っている研修内容やイベントについての説明を聴講した。



屋外施設の紹介



イタセンパラの見学



研修室での講演

関西広域連合環境保全局 エコツアーアンケート結果

【実施日】 平成 29 年 2 月 1 日(水)

【回答数】 18 名分

【行 程】 9 時 10 分南草津駅出発～18 時 00 分大阪駅に到着。
以下の目的地を訪問した。

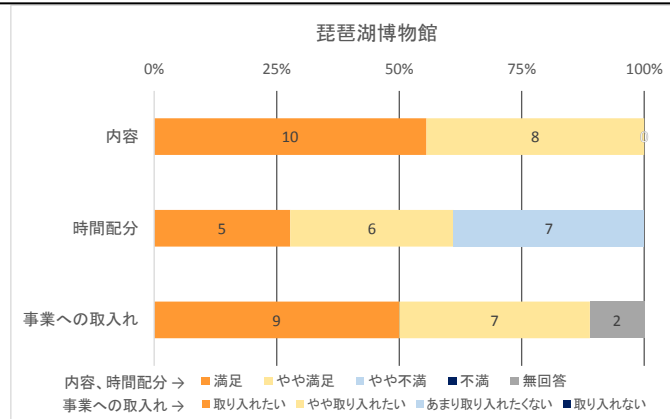
- ①琵琶湖博物館
- ②あやめ荘、家棟川観光船
- ③南郷洗堰
- ④鵜殿ヨシ原
- ⑤水生生物センター

設問2 本ツアーで訪問した目的地について

琵琶湖博物館

滞在時間：1時間5分(9:50－10:55)

内 容：①セミナー室での講義（関西活かしたいエリアの紹介、本ツアーの目的、琵琶湖博物館の概要）
②館内展示の見学（水族展示コーナー）



Q1 体験、見学した内容の満足度

□「満足」と回答した方の理由・意見

- ・ 展示内容は大変良くできていますと思います。(旅行会社)
- ・ 講義、館内案内適当な時間。(活動団体)
- ・ 充実した展示内容だった。(活動団体)
- ・ リアルな環境に近い展示はとてもインパクトがあった。景色の美しさも売りになるだろう。(活動団体)
- ・ 時間が十分にほしい。(研究者)
- ・ リニューアル後に一度来館しているが、どのようなコンセプトでつくられたか等知ることができて良かった。(行政)
- ・ 丸一日使った博物館ツアーでも十分楽しめそうです。(行政)

□「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・ 旅行商品に適したツールの一つ(旅行会社)
- ・ リニューアルされていたが、その部分のアピールがほしかった。(旅行会社)
- ・ もっと時間がほしかった。中井主幹の解説が良かった。(研究者)
- ・ 解説を聞きながら、ゆっくり見たかったです。(行政)
- ・ 生物多様性の説明も分かりやすく良かったが、もう少し琵琶湖や淀川に特化した内容でも良かったかなと思います。(行政)
- ・ 博物館でありながら、水生生物(魚)の展示が充実していた。(行政)

□「やや不満」と回答した方の理由・意見

なし

□「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q2 時間配分・説明内容の量

☐ 「満足」と回答した方の理由・意見
なし

☐ 「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・もう少しゆっくりと展示を見たかった。博物館のアピールポイントが感じられた。(活動団体)
- ・もう少し時間がほしかった。(研究者)
- ・セミナーの時間をもう少し短くして、展示を見る時間を少し長くするほうが良かったです。(行政)
- ・説明時間が少し短かった。(行政)

☐ 「やや不満」と回答した方の理由・意見

- ・展示の説明を中心にしておしかったです。一通り全体を観たかった。(旅行会社)
- ・プレゼンツアーだからしかたないだろう。(活動団体)
- ・もっと解説を聞きたい。(研究者)
- ・もう少し時間をかけて見たい(研究者)
- ・もう少し見学の時間がほしかった。(研究者)
- ・もう少し時間がほしい(行政)

☐ 「不満」と回答した方の理由・意見
なし

Q3 事業、旅行商品等への取り入れの可能性について

☐ 「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・ダイナミックな展示とフィールドにすぐ接続できる立地が魅力。(活動団体)
- ・琵琶湖のメインとして必須。(活動団体)

☐ 「やや取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・既にツールのひとつになっている。(旅行会社)
- ・体験を加えること(子供、又は大人とセット)(活動団体)
- ・展示を見るだけでなく、セミナー等組み合わせると、より理解が深まるので良いと思います(行政)

☐ 「あまり取り入れたくない」と回答した方の理由・意見
なし

☐ 「取り入れない」と回答した方の理由・意見
なし

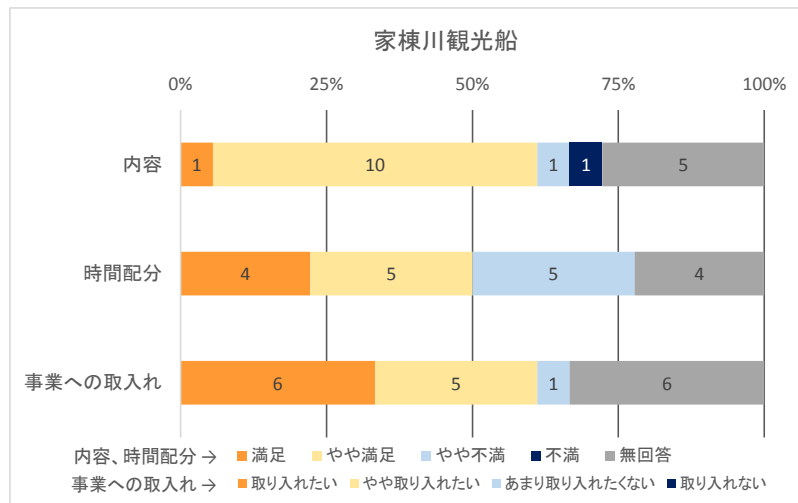
○まとめ

- ・参加者の展示施設への関心が高く、事業、旅行商品への取入れに前向きな回答が多かった。
- ・展示コーナーの見学時間が短いと回答する人が多かったので、セミナー室で行った説明内容の一部をバスの移動時間に行う等の改善ができると思われる。

家棟川観光船

説明時間：15 分（12:05 - 12:20）

内 容：家棟川観光船の紹介、琵琶湖の漁の移り変わり、家棟川のみどころ



Q1 体験、見学した内容の満足度

□ 「満足」と回答した方の理由・意見

- ・松沢さん(NPO 家棟川観光船代表)のお話(活動団体)

□ 「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・ 季節が合えばゆっくりと楽しめそう(旅行会社)
- ・ 船に乗りたかった。船上で船頭の方とじかにお話をできることが大きな魅力になる。(活動団体)
- ・ 実際に乗ってみたかった。(研究者)
- ・ 良いシーズンに行ってみたい。(研究者)
- ・ 実物が見たかった。(行政)

□ 「やや不満」と回答した方の理由・意見

- ・ 見学していないから。(旅行会社)
- ・ 観光客を受け入れるには駐車場、トイレ関係の整備が必要。(旅行会社)
- ・ 実際に船を見ることができれば良かったが、イメージが難しかった。(研究者)

□ 「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q2 時間配分・説明内容の量

- ☐ 「満足」と回答した方の理由・意見
 - ・松沢さんのお話の内容(活動団体)
 - ・地元の方に説明していただいたので、良さと問題やそれに対する取組みがリアルに聞けた。(活動団体)
- ☐ 「やや満足」と回答した方の理由・意見
 - ・実感がわからない(研究者)
 - ・観光船に乗るものと勘違いしていました。(行政)
- ☐ 「やや不満」と回答した方の理由・意見
 - ・実際に観光船をみたかった。(旅行会社)
 - ・プレゼンツアーだからしかたないだろう。(活動団体)
 - ・観光船を実際に見てみたかったです。(行政)
- ☐ 「不満」と回答した方の理由・意見
 - ・実際に観光船をみたかった。(旅行会社)

Q3 事業、旅行商品等への取り入れの可能性について

- ☐ 「取り入れたい」と回答した方の理由・意見
 - ・船に乗ることが大切(活動団体)
 - ・船に揺られながら自然を感じられるなら魅力的。(活動団体)
- ☐ 「やや取り入れたい」と回答した方の理由・意見
 - ・距離と値段的に難しく感じます。(行政)
- ☐ 「あまり取り入れたくない」と回答した方の理由・意見
 - なし
- ☐ 「取り入れない」と回答した方の理由・意見
 - なし

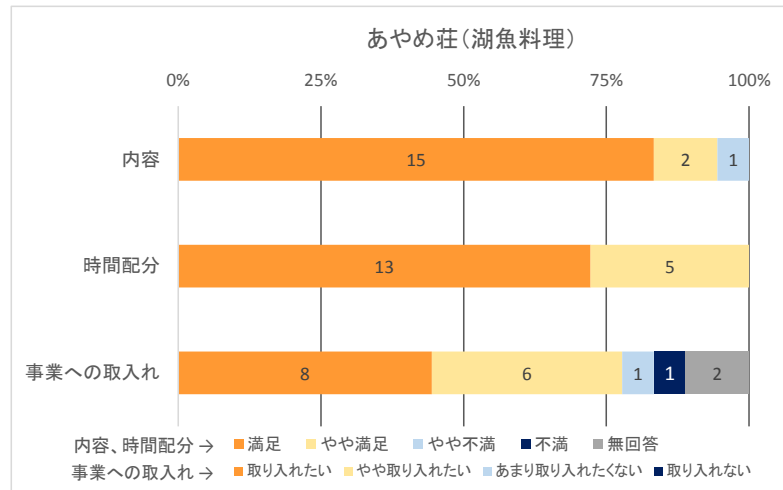
○まとめ

- ・現物をみていないので、実感がわきにくいとの回答が多かった。説明よりも現物を見ること、体験すること機会を設けることが重要であると考ええる。
- ・事業、旅行商品への取入れについては、本ツアーの内容に満足する回答数よりも取入れに前向きな回答数が多いことから、参加者の観光船事業への関心は高いと考える。

あやめ荘（湖魚料理）

食事時間：30分(11:30 - 12:00)

内 容：湖魚料理(2,000円程度)の食事



Q1 体験、見学した内容の満足度

□ 「満足」と回答した方の理由・意見

- ・子供のころを思い出しました。(旅行会社)
- ・地元産にこだわりがあり、ならではで美味しかったです。(旅行会社)
- ・近江八珍に近いもの、本物(活動団体)
- ・珍しい料理を楽しめました。(活動団体)
- ・地元の伝統料理を頂けたのは貴重な体験だった。交通が少々不便なのが課題だと思う。(活動団体)
- ・お話が最高に良かった。(活動団体)
- ・非常に手のこんだ地元の料理で、生態系サービスの利用について昔からの方法を学んだ。(研究者)
- ・気軽に立ち寄れる料理屋があればもっと良い(研究者)
- ・初めて食べるものもあり、特別な体験でした。(行政)

□ 「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・ワカサギの天ぷらは後からでも温かいものを出してほしい(旅行会社)
- ・料理が高く感じた。川魚食文化広く伝えるには、ハードルを低くしたほうが良いと思う。(研究者)
- ・珍しい、貴重な料理が食べられて良かったです。(行政)
- ・地域特有の料理が食べられてとても満足しました。(行政)
- ・琵琶湖の魚などを使っており、地域の自然のめぐみ分かる内容でした。(行政)

□ 「やや不満」と回答した方の理由・意見

- ・団体に対応できていない(旅行会社)

□ 「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q2 時間配分・説明内容の量

- ☐ 「満足」と回答した方の理由・意見
 - ・落ち着いて、味わって食べる時間があった。(活動団体)
 - ・ちょうど良い(研究者)
- ☐ 「やや満足」と回答した方の理由・意見
なし
- ☐ 「やや不満」と回答した方の理由・意見
なし
- ☐ 「不満」と回答した方の理由・意見
なし

Q3 事業、旅行商品等への取り入れの可能性について

- ☐ 「取り入れたい」と回答した方の理由・意見
 - ・ 地元の人の料理の説明がほしい(活動団体)
 - ・ 伝統的な郷土料理が本格的に食べられる場という意味で、価値があると思う。(活動団体)
 - ・ 非常に重要だと思われる。(研究者)
- ☐ 「やや取り入れたい」と回答した方の理由・意見
 - ・ ツアーなら少々料金が高くても OK か？(研究者)
 - ・ 距離と値段的に難しく感じます(行政)
- ☐ 「あまり取り入れたくない」と回答した方の理由・意見
 - ・ 個人や少人数グループ向き(旅行会社)
- ☐ 「取り入れない」と回答した方の理由・意見
なし

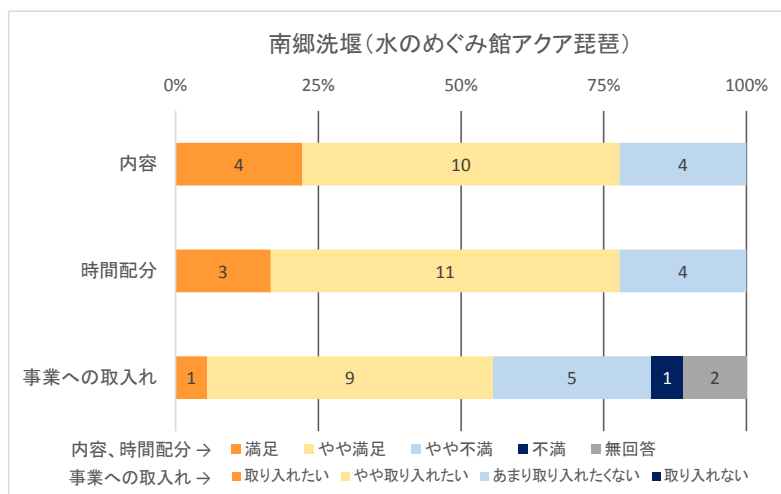
○まとめ

- ・琵琶湖の湖魚料理を食べられる内容に満足する回答が多数を占めた。
- ・事業、旅行商品等への取り入れは、団体対応が十分にできていない、温かい料理が提供できていない、価格面等の理由から否定的な回答があった。料理内容(食材)への満足度が高いので、団体対応が可能なメニュー、受入体制をつくることにより、改善が図れるものとする。

南郷洗堰

説明時間：30分（13:25 - 13:55）

内 容：琵琶湖・淀川水系の治水事業、環境に配慮した水位管理の説明



Q1 体験、見学した内容の満足度

□・「満足」と回答した方の理由・意見

- ・水にまつわる歴史少し長すぎたが（活動団体）
- ・初めて入館したが、またゆっくり来てみたい。（活動団体）
- ・琵琶湖、淀川水系の歴史を模型も含めて体感できた。（活動団体）

□・「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・旅行ツールには使いやすい。（旅行会社）
- ・淀川の治水についてよく理解できました。（旅行会社）
- ・琵琶湖と流域の関係性をよく理解できました。（旅行会社）
- ・水域の理解を深めるにはいいが、やや硬い。（研究者）
- ・琵琶湖と淀川等下流とのつながりを広域に学べて良かったと思います。（行政）

□・「やや不満」と回答した方の理由・意見

- ・エコツアーへの絡め方が難しかった。治水システムだけでなく文化遺産的なアプローチもほしい。（研究者）
- ・話が難しかった。（研究者）

□・「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q2 時間配分・説明内容の量

☐・「満足」と回答した方の理由・意見
なし

☐・「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・少しお話が長かった。(活動団体)
- ・歴史と治水や環境保全の工夫についてよく分かった。(活動団体)
- ・ざっとでいいので、展示を見ればより良かったかなと思います。(行政)

☐・「やや不満」と回答した方の理由・意見

- ・もう少し分かり易く(研究者)
- ・説明が少し長い (プレゼンとパネルでの説明が同じだった。)(研究者)

☐・「不満」と回答した方の理由・意見
なし

Q3 事業、旅行商品等への取り入れの可能性について

☐・「取り入れたい」と回答した方の理由・意見
なし

☐・「やや取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・すでに取り入れている。(旅行会社)
- ・体験でないと展示だけでは。(活動団体)
- ・行程上にあれば取り入れたい。(活動団体)
- ・琵琶湖と淀川とセットで見学できるのであればぜひ取り入れたいが、優先度は低い。(行政)

☐・「あまり取り入れたくない」と回答した方の理由・意見

- ・治水のみでは、おもしろみに欠ける。(活動団体)

☐・「取り入れない」と回答した方の理由・意見
なし

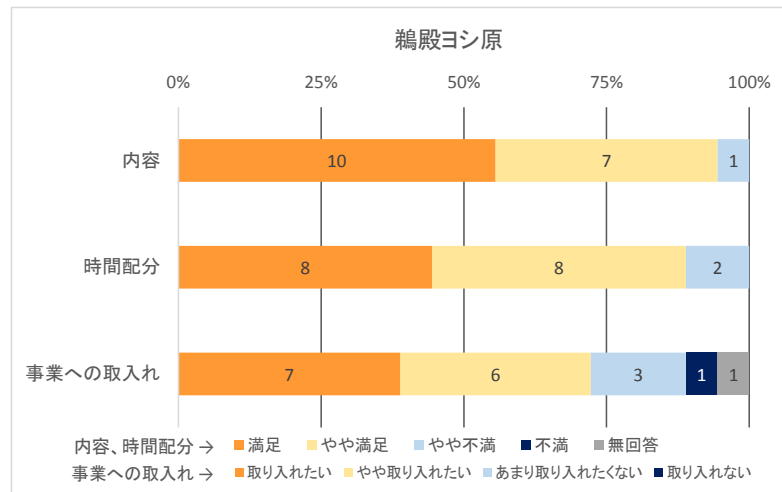
○まとめ

- ・琵琶湖、淀川水系の治水事業への説明が多く、参加者の回答結果が分かれた。
- ・説明内容が専門的、硬いと感じる回答が多かったので、一般受けする柔らかい内容、琵琶湖河川レンジャー等の活動団体にガイドを要請することで改善できると考える。

鵜殿ヨシ原

説明時間：1 時間（15:00 - 16:00）

内 容：ヨシ原保全事業、ヨシ刈体験、ヨシと人とのかかわり（商品、楽器の紹介）



Q1 体験、見学した内容の満足度

□ 「満足」と回答した方の理由・意見

- ・現場に立つ意味大、ボランティア活動(活動団体)
- ・歴史を感じました。(活動団体)
- ・河川レンジャーの方々に詳しく説明していただいたため、細かく分かった。実際にヨシ原に入るのは刺激的で良い。(活動団体)
- ・ちょっと体を動かされるのがツボ(活動団体)
- ・体験型は良い(研究者)
- ・ヨシ刈を初めて体験でき、また、ヨシとオギの違いも実際に近くで見られたので、理解できたと思います。(行政)

□ 「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・広すぎのと、ポイントがしぼり難いか。(旅行会社)
- ・河川レンジャーさんの話も面白く、ヨシ原についても学べたが、エコツアーにどう取り組むかが難しいと感じた。(研究者)
- ・実際にフィールドに立ち入れるのが良かった。(研究者)

□ 「やや不満」と回答した方の理由・意見

- ・もの足りない、ヨシ焼きが見てみたい。(旅行会社)

□ 「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q2 時間配分・説明内容の量

- ☐ 「満足」と回答した方の理由・意見
 - ・ボランティアの知識、熱量(活動団体)
- ☐ 「やや満足」と回答した方の理由・意見
 - ・河川レンジャーなど実際に関わられている方のお話が聞けた点が良い。(活動団体)
 - ・細かいバス移動が多く、外での時間がもっとほしかった。(研究者)
 - ・歴史のはなしがあればよかった。(研究者)
- ☐ 「やや不満」と回答した方の理由・意見
 - ・もう少しゆっくり見たい。(研究者)
- ☐ 「不満」と回答した方の理由・意見
 - なし

Q3 事業、旅行商品等への取り入れの可能性について

- ☐ 「取り入れたい」と回答した方の理由・意見
 - ・たっぷり時間をとってツアーを。(活動団体)
 - ・自然のヨシ原に踏み込んで活動する体験は貴重。(活動団体)
 - ・現場なので(活動団体)
 - ・大阪にこんなところがあったのかとインパクト大。保全団体も関わっていて、エコツアーから保全活動にむすびつきやすい。(行政)
- ☐ 「やや取り入れたい」と回答した方の理由・意見
 - ・魅力的だが、一般に受け入れられるか疑問が残るので、専門家が必要。(研究者)
 - ・アクセスが良くない?(研究者)
- ☐ 「あまり取り入れたくない」と回答した方の理由・意見
 - なし
- ☐ 「取り入れない」と回答した方の理由・意見
 - ・ヨシ焼きは取り入れたいですが、天候で中止になる可能性がある」と、難しいです。(旅行会社)

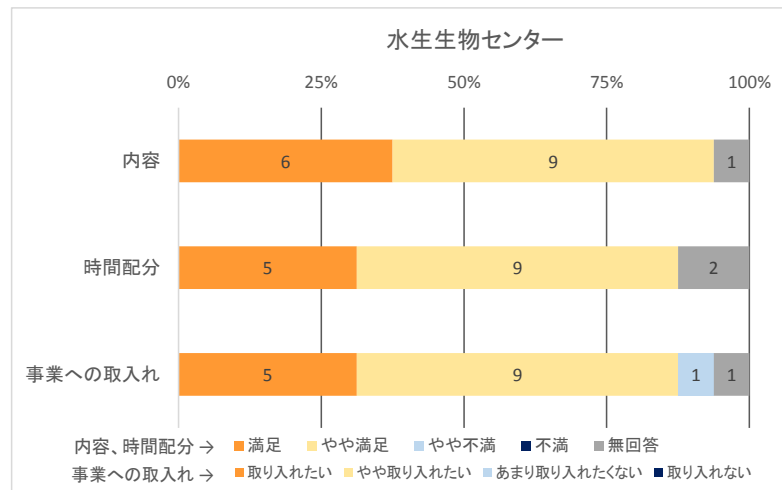
○まとめ

- ・内容については、満足する回答が多数を占めた。
- ・事業、旅行商品への取入れについては、旅行会社は否定的な回答が多かったが、活動団体は全て前向きな回答であった。天候面、アクセス面等で一般人向けの商品として取り扱うことが難しいと考える。

水生生物センター

説明時間：30分（17:00 - 17:30）

内 容：展示室（パネル、イタセンパラ等の水槽）見学、水生生物センターの活動紹介



Q1 体験、見学した内容の満足度

□ 「満足」と回答した方の理由・意見

- ・ 皆さん大変努力しておられます。(旅行会社)
- ・ あこがれの「イタセンパラ」に会えました。(活動団体)
- ・ 野外の施設を持っている点で特徴があります。(活動団体)
- ・ 貴重なイタセンパラを見ることができ点が良い。(活動団体)
- ・ 近藤さん(ガイド・講師)がエンターテイナーだった。(活動団体)
- ・ イタセンパラの活魚がみられて良かった。ワンドとセットならさらに良い(研究者)

□ 「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・ H29 新館に期待(旅行会社)
- ・ 少々かけ足だったのが残念(研究者)
- ・ 琵琶湖から始まり、最後は淀川で流れを感じながら学習できたところが良かったです。(行政)

□ 「やや不満」と回答した方の理由・意見

なし

□ 「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q2 時間配分・説明内容の量

- ☐ 「満足」と回答した方の理由・意見
 - ・(ヨシ笛づくりとの) 組合せが良かった。(活動団体)
 - ・ニーズに応じて専門家に対応してもらえてんがありがたい。(活動団体)
 - ・夏の緑の時期に訪れたいと思いました。(行政)
- ☐ 「やや満足」と回答した方の理由・意見
なし
- ☐ 「やや不満」と回答した方の理由・意見
なし
- ☐ 「不満」と回答した方の理由・意見
なし

Q3 事業、旅行商品等への取り入れの可能性について

- ☐ 「取り入れたい」と回答した方の理由・意見
 - ・ビオトープでの体験を入れる。(活動団体)
 - ・天然記念物イタセンパラを間近で見られるセンターやワンドがある点。(活動団体)
 - ・学びと体験が同時にできて良い。(行政)
 - ・池中に入って生きもの採取と観察ができるのが良いと思う。(行政)
- ☐ 「やや取り入れたい」と回答した方の理由・意見
 - ・もう一度春に訪れたい(旅行会社)
 - ・建て替えに期待(活動団体)
 - ・昼食時などうまく野外活動とからめれば面白いと思う。(研究者)
- ☐ 「あまり取り入れたくない」と回答した方の理由・意見
 - ・建て替えに期待(活動団体)
- ☐ 「取り入れない」と回答した方の理由・意見
なし

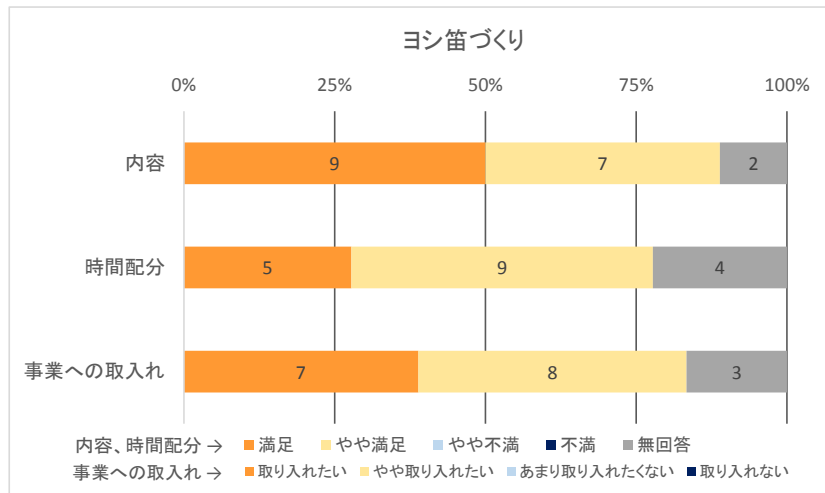
○まとめ

- ・活動団体、研究者を中心にイタセンパラを見学できたことに「満足」とする回答が多かった。
- ・事業、旅行商品への取入れについては、平成 29 年度に予定している施設の立て替え、敷地内の池中での体験活動を重視して「取り入れたい」「やや取り入れたい」と回答する数が多かった。

ヨシ笛づくり体験

説明時間：35分（16:25－17:00）

内 容：グループに分かれてのヨシ笛づくり体験



Q1 体験、見学した内容の満足度

☐ 「満足」と回答した方の理由・意見

- ・お手伝いいただきました。(旅行会社)
- ・家に帰って使ってみよう。(活動団体)
- ・要領良く作成できました。(活動団体)
- ・昔ながらの文化を体験できました。(活動団体)
- ・童心に戻れる(活動団体)
- ・楽しかったです。お土産になるのは喜ばれそうです。(研究者)
- ・比較的簡易にできて楽しかった。(研究者)

☐ 「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・手軽で良い(旅行会社)
- ・ヨシを見た後だったので、より興味をもって取り組めたと思います。(行政)

☐ 「やや不満」と回答した方の意見

なし

☐ 「不満」と回答した方の意見

なし

Q2 時間配分・説明内容の量

- ☐ 「満足」と回答した方の理由・意見
 - ・（水生生物センターとの）組合せが良かった。（活動団体）
 - ・ヨシ笛を2つ作れるほど時間に余裕があった。（活動団体）
 - ・時短できるところはされていて、手軽に体験できた。（行政）
- ☐ 「やや満足」と回答した方の理由・意見
なし
- ☐ 「やや不満」と回答した方の理由・意見
なし
- ☐ 「不満」と回答した方の理由・意見
なし

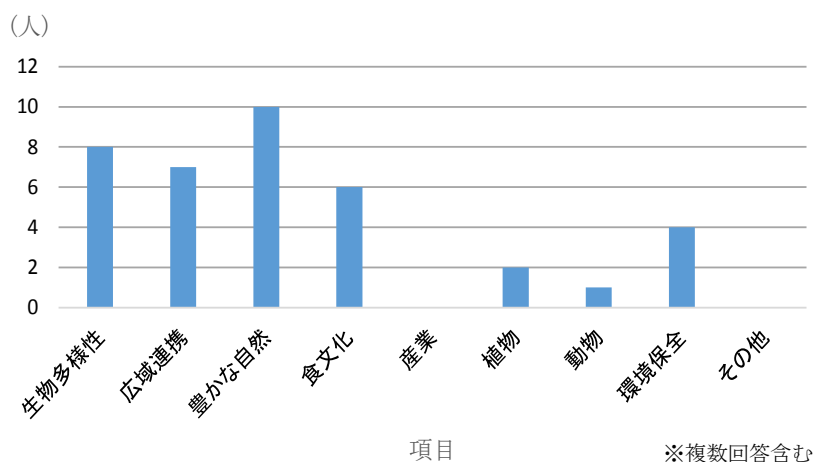
Q3 事業、旅行商品等への取り入れの可

- ☐ 「取り入れたい」と回答した方の理由・意見
 - ・良かったです。ヨシ笛を吹く名人芸を見たい。（活動団体）
 - ・鶺鴒ヨシ原とセットなら取り入れたい（活動団体）
 - ・簡単で楽しめると思う。（研究者）
 - ・手軽に何か体験して持って帰れるものとしておもしろい（行政）
- ☐ 「やや取り入れたい」と回答した方の理由・意見
なし
- ☐ 「あまり取り入れたくない」と回答した方の理由・意見
なし
- ☐ 「取り入れない」と回答した方の理由・意見
なし

○まとめ

- ・予定時間内にヨシ笛をつくることができ、内容に満足する回答が多数を占めた。
- ・本ツアーでの内容や今後の事業への取入れについて、否定的な意見がなく、手軽に体験できる企画が好まれやすいことが分かった。

設問3 本ツアーで理解が深まったことについて、該当するものを○で囲み、その理由についてご回答下さい。



◆生物多様性

- ・生物のつながりの多様性が興味深かった。(旅行会社)
- ・生物多様性という、一般にはわかりにくい言葉を少し絡めて理解でき良かった。淀川水系、地域をつなぐ物語化が必要。(活動団体)
- ・水のつながりから文化、産業、生物の連続性を体感できた。特に多くの生物が生息できる環境の重要性と人間生活を支える生物の多様性を学んだ。(研究者)

◆琵琶湖、淀川水系の広域連携の重要性、

- ・琵琶湖と淀川のつながりを知ったこと(特にアクア琵琶にて)。(活動団体)
- ・産業や教育など社会とつなげながら、自然との関わり方について考える機会をつくることは大切だと感じた。(活動団体)
- ・自然環境は人の手によって保全され、利活用されていることがよくわかった。(研究者)
- ・水の流れに沿って各関連施設で学べた。(行政)

◆琵琶湖、淀川水系の豊かな自然

- ・ヨシ原を初めて訪れた。また箏箏の演奏を初めて聞いた。その印象が大きかった。(研究者)
- ・琵琶湖の整備やそれに伴う生き物の変化について体験しながら貴重なお話を聞けたので。(行政)
- ・琵琶湖博物館から始まり、各地の自然・生物についてたくさん学ぶことができました。またツアーとして各地をまわることで、琵琶湖・淀川水系のつながりも感じました。(行政)
- ・都会のすぐそばの淀川にも希少な生き物がいることがわかりました。(行政)

◆食文化

- ・例えばビワマスは琵琶湖やその周囲の地形があってこそ生息できる事がわかりました。またビワマスやフナ、あゆといった地域の食材を使い、美味しい料理を提供されていることも知ることができました。(行政)

○まとめ

- ・琵琶湖・淀川水系の豊かな自然と生物多様性のへの理解が深まり、広域連携の重要性が大切とする回答が多かった。

設問4 本ツアーで良かった内容とその理由をご記入ください。

◆プログラム

- ・博物館の役割の大切さや重要性を改めて感じました。ヨシ原に入れたこと。実際に活動されている方の熱心なお話しが聞けて勉強になりました。(行政)
- ・講義と体験がどちらもバランスよくプランニングされていたと思います。各所どころも見どころがあり楽しめましたが、バス内で琵琶湖の説明をところどころ入れていただいたのが、バスでも楽しめて良かったです。(行政)
- ・博物館と料理、地域のことを知ることができました。(行政)

◆広域での連携について

- ・広域連合の横のつながりがあって良い。(旅行会社)
- ・広域で連携していることがわかったこと。(旅行会社)
- ・全体を広く浅く把握できた点で有益でした。行政と他のセクター間の連携・協力ができていることを確認したこと(例：河川レンジャー)。(活動団体)

◆琵琶湖、淀川水系の豊かな自然

- ・生物多様性と淀川水系の関連性をよく理解できました。(旅行会社)
- ・琵琶湖から淀川へ、ヨシつながりで文化や産業を感じられたことは良かった。水、自然の連続性を感じた。(研究者)
- ・山系の仕事をしているので、湖系川系のことが知ることができ、山系に生かせるヒントもあったのでa l l OKです。(活動団体)
- ・琵琶湖、淀川水系にフォーカスしたことで、同じ水系でも異なる環境や生物がいることを学びました。(行政)

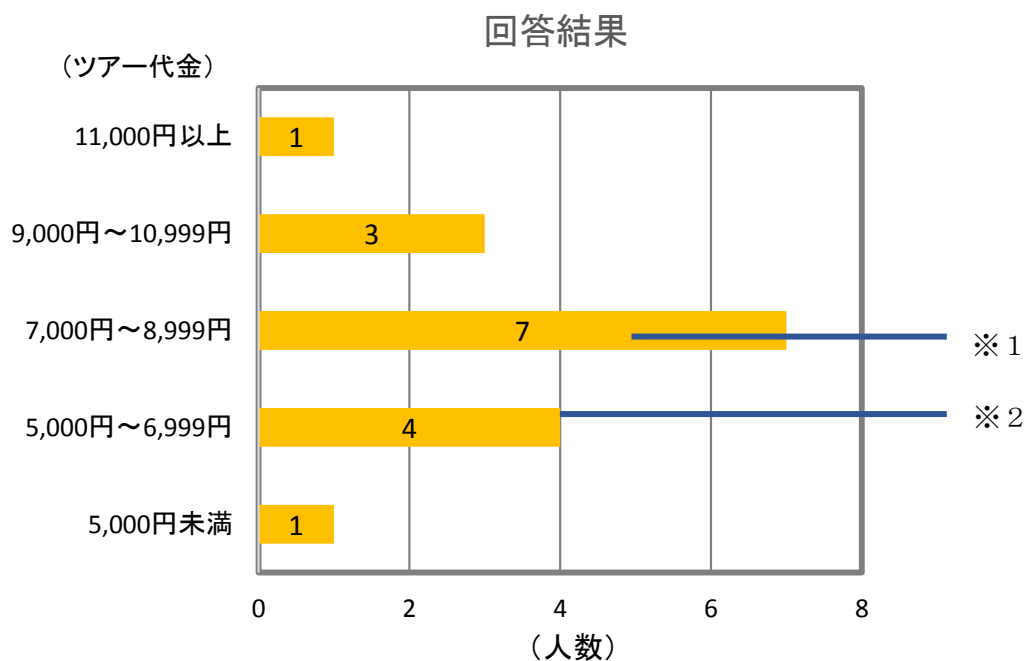
◆食事

- ・漁師料理など、実体験することが多かった点。また、そのものが好きな方が詳しく説明してくださった点。(活動団体)
- ・湖魚料理づくりは通常あまり食べられないので特別感が演出され良かった。会場のロケーション(琵琶湖の眺め)もよかった。(研究者)
- ・地元の料理がはずせないということを実感した。(行政)

○まとめ

- ・講義、施設見学、屋外での体験、食事等多岐にわたるプログラムで、幅広い回答が得られた。

設問 5 本ツアーが一般の旅行であった場合、ツアー代金はいくらだったら参加しますか（大阪駅発着）。



※1 今回の参加人数 26 名でツアーを実施する場合の 1 人当たりの負担額
(バス代、高速代、駐車場代、入館料、食事代) ÷ 26 名 ≒ 7,150 円

※2 バスの定員(正規シートのみ) 33 名でツアーを実施する場合の 1 人当たりの負担額
(バス代、高速代、駐車場代、入館料、食事代) ÷ 33 名 ≒ 6,200 円

○まとめ

- ・ 4,000 円～12,000 円まで幅広い回答結果が得られた。
- ・ 7,000 円～8,000 円の回答が最も多かった。今回のツアーの必要経費を参加者で均等に負担してもらった場合、1 人当たりの負担額は約 7,150 円であり、利益を考えない事業であれば成立するものとする。

設問6 本ツアー（自然エリアを活用したツアー）を商品化、事業化する場合の課題をご記入下さい。

◆テーマ

- ・テーマでの的をしぼり込む必要性。アクティビティ(体験)の選定(活動団体)
- ・ただツアーに参加するだけだと受け身になってしまいがちで、せっかく学んだことや、体験したことが残らないと感じました。また、ツアーに何か1つテーマを持たせるなど1日のツアーの中での一貫性が欲しいと思います。(行政)
- ・どのテーマに的をしぼるか、何を目玉に参加者を募集するかを決定し、他府県にまたがるツアーを各部所と調整する難しさ。(行政)

◆交通

- ・交通の不便をどうカバーするか。(活動団体)
- ・バス駐車場の確保(旅行会社)
- ・大型バスツアーは無理。料理は素晴らしいが(活動団体)

◆食事

- ・季節の花(季節感を出す)、食事(天ぷらをあげたて)。(旅行会社)
- ・食事内容の充実(旅行会社)

◆集客

- ・一般的ではないので、お客様のターゲットを絞っての企画となる(旅行会社)
- ・近いためどの様なトピックでアピールするか(旅行会社)
- ・顧客集め(広報告知)(活動団体)
- ・募集型では集まりにくい。手配型か、教育機関係になる。(活動団体)

◆地域、各団体との連携

- ・話ができて、現場を知っている専門家と地域の協力が必要。(研究者)
- ・自然を概観し、且つ個別の事柄にも対応できるガイド(出来れば地元の人の)育成が必要。受け入れ側のキャパ等による収容力を良く考えないと持続的な利用につながらない。(研究者)
- ・各団体との連携。(行政)

◆行程

- ・訪問施設は1日で2つくらいにしぼり、自由時間を多めにとった方が良いです。学びの場を意識するなら、最後に参加者からのアウトプットがある方が良いです。(行政)

○まとめ

- ・旅行会社は、集客方法と食事内容を課題に挙げる回答が多かった。
- ・研究者はガイドの協力の有無を課題に挙げる回答が多かった。

設問 7 琵琶湖・淀川水系エリア図の中に表示されている情報で、興味深い場所、対象はどこかご記入下さい。

- ・ 宇治川と淀川の境界付近(伏見等)の情報 (旅行会社)
- ・ 淀川三川合流域「さくら出会い館」・淀川舟運ウォッチング・ウォーキングルート (旅行会社)
- ・ 各水辺の景観、生物 (植物)、食文化全般 (旅行会社)
- ・ 近江八幡の水郷 (活動団体)
- ・ 竹生島のタブノキ林 (活動団体)
- ・ 西の湖などの内湖・針江地区・淀川汽水域 (研究者)
- ・ 鵜殿ヨシ原・天ヶ瀬ダム (研究者)
- ・ 三川合流域 (研究者)
- ・ 淀川の汽水域ワンド (行政)
- ・ 鵜殿ヨシ原 (行政)

設問8 地域の自然資源をツアー等に取り入れる場合の課題についてご記入ください

◆集客

- ・対象が限られる。人が集まらない。(旅行会社)
- ・販売の時の目玉がない。(旅行会社)
- ・地域と行政と旅行会社との連携が必要。地域の自然資源の魅力をどうやって客に伝えるのかが課題。(旅行会社)
- ・地域の自然をどう魅力的にPRするか広報が難しいと感じます。(行政)

◆地域、各団体との連携

- ・地域の方々のご理解、ご協力。(旅行会社)
- ・紹介者の存在が必要。里山や水源の森など自然と人との暮らしぶりをプログラム化。(活動団体)
- ・地元住民、自治体の協力と理解(研究者)

◆気候、天候

- ・天候、季節。どちらも準備しておくことで、そのときならではの楽しさも発見できる可能性は感じるが、ツアー会社がそこまでして実践するか良さを知ってもらう必要がある。(行政)
- ・季節、天候に左右される。(行政)

◆その他

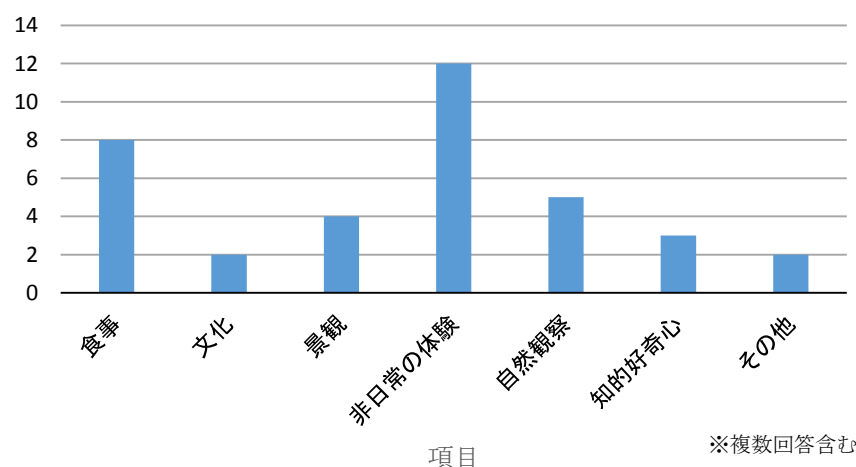
- ・「エコ・ツーリズム」のブランディング化(トレンド化)が重要。(活動団体)
- ・結局は一過性のレジャーツアー・イベントとなってしまう。地域が人が訪れるのを必ずしも望んでいない場合も多い。参加者の中に悪意のあるナチュラリストが入ってきてツアーをこわしてしまうことも。(活動団体)
- ・観光地に比べて整備されていない場所も多いので、トイレなどの確保に困るかもしれません。
- ・どんな解説をするかによって、面白さが全く異なると思います。(行政)

○まとめ

- ・旅行会社は、地域の自然環境の魅力の伝え方、集客方法を課題に挙げる回答が多かった。

設問9 エコツアーを実施する場合、こういった要素を重視しますか。該当するものを○で囲み、その理由についてご回答下さい。

(人)



◆食事

- ・ 地元の食材を使ったおいしい食事(写真も必要) (旅行会社)
- ・ 地元食 (活動団体)
- ・ 食は直接的でわかりやすい (研究者)

◆非日常の体験

- ・ 一般旅行との差別化のためには、何か体験を組み込みたいところです。(活動団体)
- ・ ハードルは高いがその時だけの感動ではなく、何かにつながっていくような体験を伝えたい。(活動団体)
- ・ 全て大切だと思うが、食事でも観察でも、非日常の体験の重要性は共通している。(行政)
- ・ 参加者に一つでも多くの記憶を残すためには新たな体験や知見を得てもらいたい。(行政)
- ・ 通常感じることのない体験はより記憶に残ると思いますし、次の行動につながる最初の足掛かりとしては良いと思います。(行政)
- ・ 家族と出かける際、非日常といった要素を重視していると思います。近くのカフェに行く場合でも、ちょっとおしゃれな場所であったり、日常では体験できないようなところであれば人は集まると思います。(行政)
- ・ 参加者に体を動かしてもらうことが一番大事だと思います。(行政)

◆その他

- ・ 地元も協力して持続できるかだと思います。(研究者)
- ・ 単独で行ってもわからないことを有識者の人に教えてもらえてさらにおもしろくなる。(行政)

○まとめ

- ・ 食事と非日常体験を重視する回答が多かった。食事、非日常体験ができることを全面にアピールして集客し、知的好奇心を満たすようなプログラムを加えることがエコツアーを事業として成立する上で大切と考えられる。

設問 10 自由記入欄の回答内容

- ・ 今後の旅行は体験型や研修型が増えてくるのではないか。それぞれツアー毎に目的を設定することが大事か。(旅行会社)
- ・ 担当者の方々の努力が目につきました。かなり慎重に準備されたところが伺える。旅行者としては、営業目的に利用するには、集客をふくめて、かなり努力がいります。エコツアーについての提案をいただいたことに感謝します。(旅行会社)
- ・ 季節ごとにどんなツアーが企画できるか教えてほしい。(旅行会社)
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございました。(旅行会社)
- ・ 複数のセクターが交流する機運にあることを知って嬉しく思いました。(活動団体)
- ・ 企画、運営ありがとうございました。かけ足でしたが、大都市も近く魅力的なフィールドもあるエリアでエコツアーの可能性は大きいエリアでしたね。コンパクトにまとまり、日帰りできるのも良いです。和歌山でも可能性を模索したいと思います。(研究者)
- ・ 地域の自然が消費されるのではなく、上手にヒト、モノ、カネが回るような、持続的な動きになるよう頑張ってください。(研究者)
- ・ 1 日のツアーにたくさんつめこんでいただいたので、各所短い時間でしたが、それぞれの見どころを学ぶことができたと思います。タイトなスケジュールのなか、事務局の皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。(行政)
- ・ 足立美術館ツアー（日帰り）が大阪からのバスツアーで 1 万円ぽっきりだった。朝 8 時出発、夜 9 時帰着だったが大満足だった。中身が良ければものすごくお得と思う。何かに特化して、取り入れれば満足感のあるツアーができるのではないか。(行政)

令和2年度「関西の活かしたい自然エリア」エコツアー体験学習

琵琶湖・淀川水系（自然エリア6）
『琵琶湖疏水が「つなぐ」生物多様性』
～絶滅危惧種イチモンジタナゴ保全の軌跡～

「関西の活かしたい自然エリア」の保全・活用のため、自然エリアを対象として、エコツアーの体験学習を行いました。

1 はじめに

関西広域連合広域環境保全局は、関西全体で広域の環境保全に取り組み、「環境先進圏“関西”」を目指しています。その一環として、関西市域の自然史博物館のネットワーク等を活用して生物多様性情報を共有し、わかりやすい形で表現することに取り組んできました。

「関西の活かしたい自然エリア」は、その取り組みの成果として、平成28年（2016年）11月、森・川・海のつながりを重視し、府県の境界にこだわらない広域的な視点に立ち、生物多様性保全上重要な地域として選ばれた23地域で、インターネット上でも公開されています。

この自然エリアを積極的に活用し、自然エリアを守り育てていくための手法としてエコツアーに注目しました。自然エリアでのエコツアー実施の可能性をさぐる「エコツアー体験学習」を、平成28年度（2016年度）から毎年開催し、これまで「琵琶湖・淀川」エリア、「北摂・南丹」エリア、「紀伊水道とその沿岸」、「東播磨・北淡路」エリアで実施しました。

そして5回目となる今回は、自然エリア6「琵琶湖・淀川水系」エリアを対象に実施しました。

2 エコツアー体験学習の目的

このエコツアー体験学習は、以下の目的をもって実施しています。

- 地域の生物多様性や自然の恵みの重要性、およびそれらと関わる地域の人々の営み（歴史や文化）への気づきと理解を深める。
- 地域にある博物館などの施設や、地域で活動するNPOなどの団体、地元の産物を利用した食事などが、どのようにエコツアーに活用できるのかを体験的に学ぶことで、自然エリアを活用したエコツアーを、行政や活動団体、旅行会社、教育機関などが企画・運営するための足掛かりとなる。

この体験学習が「関西の活かしたい自然エリア」のみならず、地域の自然資源を活用し、その理解を深め、保全や持続的利用を促すことにつながるエコツアーへと展開する、きっかけになることを期待しています。

3 日程・参加者等

- 日程：令和2年11月27日（金）
- 参加者：関西地域の旅行業関係者、自然系団体関係者、行政関係者等の計11名
- 旅行委託：関西地域の旅行業者
- 訪問地間の移動：貸し切りバスを利用
- 各訪問場所にて：有識者や保全活動実施者等に、訪問地の特徴や歴史、種の保全の取組とその活動内容などを解説していただきました。

4 自然エリア6「琵琶湖・淀川水系」について

琵琶湖は世界有数の古代湖で、水系には魚類・貝類をはじめとする固有種が多く、流入河川周辺の水田水域との間を回遊する魚種も少なくありません。古くからそれらを利用する独自の食文化も発達しています。冬季には多くの水鳥が訪れる越冬地でもあります。淀川にはイタセンパラ、桂川にはアユモドキ、湖東湧水地にはハリヨなど、絶滅寸前の淡水魚も生息し、広大なヨシ原も残されています。また、下流域には絶滅危惧種のニホンウサギも生息しています。

5 エコツアーの概要

琵琶湖疏水は、琵琶湖の湖水を京都へ流すために明治時代に作られた水路です。水路を建設することで、水力発電による電気事業、舟運により資源を運搬する運河事業、防火用の引水や精米・紡績に水の流れを利用する水力事業など、京都の発展に大きく寄与しています。京都のまちづくりの礎となった琵琶湖疏水は、後年、生物多様性の保全にも寄与していることがわかりました。平安神宮神苑の池の水は琵琶湖疏水から引き込まれており、琵琶湖に生息する淡水魚や貝類が入り込み、琵琶湖で姿を消したイチモンジタナゴも生き延びていたのです。現在、ここで守られたイチモンジタナゴを増殖させ、滋賀県内で復活させる取り組みが進んでいます。

本エコツアーでは、琵琶湖の水が疏水の水路に取り込まれる取水口から、平安神宮までの水の流れを辿ることで、琵琶湖疏水の建設事業の歴史を学習するとともに、琵琶湖から姿を消したものの、疏水を通して平安神宮神苑で生き残っていた絶滅危惧種イチモンジタナゴの保全の取組について学習します。

6 エコツアー体験学習の行程

■各訪問先の位置



■当日の行程および所要時間

	目的地等	所在地	着時間	発時間	備考
	J R 大津駅 発	大津市		9:00	
	移動 (バス)				(車内で概要説明)
①	琵琶湖博物館	大津市	9:40	11:10	イチモンジタナゴの保全活動、滋賀県及び日本、世界の種の保全の取組
	移動 (バス)				
②	琵琶湖疏水	大津市	11:40	12:15	取水のシステムと外来種オオバナミズキンバイの対策についての解説
	移動 (バス)				
③	昼食 (東山和み館 玄)	京都市	12:30	13:20	京都のお惣菜をバランスよく提供する定食等
	移動 (徒歩)				
④	疏水記念館、蹴上インクライン	京都市	13:50	15:00	疏水の役割、疏水建設に関わった人物、疏水関連施設の解説
	移動 (徒歩)				
⑤	平安神宮	京都市	15:30	17:15	イチモンジタナゴ保全活動の解説と生息地の見学
	移動 (バス)				(車内でふりかえり、アンケート)
	解散 (J R 京都駅)	京都市	16:45		

※①～⑤がエコツアーでの訪問地です。

7 各訪問地の概要と当日の様子

■訪問地① 琵琶湖博物館

(1) 琵琶湖博物館について

琵琶湖博物館は、びわ湖の生い立ち、人々の歴史、自然と私たちの暮らしの展示をはじめ、湖の生き物の生きた姿を見ることができる水族展示もあわせもつ、全国的にもめずらしい総合博物館です。見るだけでなく、さわったり、においをかいでみたりして、びわ湖の自然や生き物、暮らしについて、五感で体験できる多彩な展示を楽しんでください。

展示を見るだけでなく、多様な標本を手にとりて観察ができる「おとなのディスカバリー」や、地域の人々による展示コーナーなどを設置しています。びわ湖を研究する学芸員や、さまざまな活動を行う地域の人々に出会う交流の場でもあります。

〈参考 URL〉

◆滋賀県立琵琶湖博物館 ホームページ <https://www.biwahaku.jp/>

(2) 滋賀県内におけるイチモンジタナゴについて

イチモンジタナゴは日本では琵琶湖淀川水系や濃尾平野に分布しており、ドブガイの仲間に産卵するのが特徴です。本種を含むタナゴ類は日本には 16 種（外来種除く）確認されており、「ぼて」や「ぼてじゃこ」と呼ばれ、以前は各地で普通に見ることができた種でしたが、現在ではほとんどの種が絶滅の危機に瀕しています。

琵琶湖もかつて「ぼての湖」と呼ばれるほどたくさんのタナゴ類が生息していましたが、1983 年ごろから始まったオオクチバスの急増を境に激減しました。琵琶湖での最近の記録は、わずか数地点しかありません。

琵琶湖博物館では琵琶湖疏水を経由し、平安神宮神苑の池に生き残っていた琵琶湖南湖系統のイチモンジタナゴを保護し、他の水族館や動物園、さらに「ぼてじゃこトラスト」を通じて小学校や民間企業と協力し、イチモンジタナゴの域外保全と増殖に取り組んでいます。

(3) 当日の様子

博物館の学芸員の方から琵琶湖の生物多様性とイチモンジタナゴに関する事前学習を受けた後、企画展示「守りたい！ 少なくなった生き物たち -未来につなぐ地域の宝物-」のガイドをしていただきました。



琵琶湖の生物多様性と
イチモンジタナゴに関する事前学習



企画展示では、種の保全に取り組んでいる活動の紹介

■訪問地② 琵琶湖疏水

（１）琵琶湖疏水について

京都の産業遺産である「琵琶湖疏水」は、大津市観音寺から京都市伏見区までの全長約 20km の「第1 疏水」、全線トンネルで第1 疏水の北側を平行する全長約 7.4km の「第2 疏水」、京都市左京区から分岐し北白川まで至る全長約 3.3km の「疏水分線」などから構成され、今も現役で活躍している施設です。

明治維新後、東京遷都により人口が減少し衰退した京都の復興策として、琵琶湖から水を引き、その水の力で産業振興を図る「琵琶湖疏水」の建設が計画されました。

琵琶湖疏水を活用した水力発電や水車動力は産業を大きく発展させ、舟運により人や物の行き来が盛んになるほど、京都は新たな活力を得ることになりました。

昭和に入り、舟運の貨物量の減少により疏水の舟運は長期にわたり途絶えていましたが、平成 30（2018）から「琵琶湖疏水通船事業」がスタートし、疏水の舟運が 67 年ぶりに復活しました。

120 余年の時を経て、琵琶湖疏水は今もなお京都に命の水をもたらし続けています。

（視察については、琵琶湖第一疏水取水口から琵琶湖第一疏水トンネル西口までの予定でしたが、時間が押してしまい琵琶湖第一疏水取水口のみとなり、三井寺から次の到着地である琵琶湖疏水記念館へバス移動に変更しました。）

＜参考 URL＞

◆琵琶湖疏水記念館 ホームページ 「琵琶湖疏水とは」

<https://biwakososui-museum.city.kyoto.lg.jp/about/>

（２）琵琶湖疏水とオオバナミズキンバイ

オオバナミズキンバイは水際に生育する中南米原産の外来植物です。ちぎれた茎から再生して増殖するなど繁殖力が非常に強く、特定外来生物に指定されています。

琵琶湖では 2009 年ごろに見つかり、その後生育面積が急拡大して問題となっていますが、琵琶湖から疏水や宇治川を経て分布拡大したと見られる本種が京都市や宇治市でも確認されています。

琵琶湖からの本種の流出を抑えるために、中間水路内での大群落の除去作業などが行われています。

（３）当日の様子

琵琶湖第一疏水取水口にて、疏水の作られた目的や疏水の流路、オオバナミズキンバイの問題点と対策などの解説をしていただきました。また、オオバナミズキンバイの生育状況も直接見る事ができました。



第一トンネル前での疏水に関する解説



繁茂する外来種オオバナミズキンバイ

■訪問地③ 昼食（東山和み館 玄 GEN-）

（１）東山和み館 玄 -GEN- のコンセプト

< 京 都 東 > < 京 都 東 山 連 山 を 一 望 。 命 の 恵 み を い た だ く 喜 び 。 >

< 京都東山連山を一望。命の恵みをいただく喜び。 >

壮大かつ緻密な明治の大事業「琵琶湖疏水」。

その恵みの水から生まれ「植治の庭」で名高い日本美を代表する庭園の数々。

そして国際観光都市・京都の数ある寺院の中でも、屈指の格式と絶景を誇る南禅寺。

東山・蹴上エリアは、世界遺産級の文化・産業の史跡を擁し、まさにグローバルな国際交流エリアです。

東山和み館 玄 -GEN-は偉大な宝物たちが持つその魅力を繋ぎ、国内外の多彩な方々が集う京都市国際交流会館を拠点として、東山・蹴上エリアの彩り豊かな賑わいづくりをスタートします。

< 玄とは >

玄は大地の色をあらわし、天地万象の根源となるものです。

すべての恵みを含んだ大地は、川となり海となり大気となって、また大地に還ります。

そして、季節が移り変わり生命が育まれます。

その生命の恵みを大切にするために、玄では一汁三菜 ～和食～ を採用しています。

< 和食 >

ユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、健康食として世界からも注目されています。

和食の基本的な食事スタイルのひとつ一汁三菜は、理想的な栄養バランスだと言われています。

< 心と体のバランスを考えて >

バランスのとれた食事は心と体の元気をつくれます。

この考えは、医食同源の考え方に通じます。

医食同源とは、病気を治療するのも、日常の食事をするのも、ともに生命を養い健康を保つために欠くことができないもので、源は同じだという考え方です。

< 参考 URL >

◆東山和み館 玄 -GEN-

<https://www.worldheritage.co.jp/nagomi/higashiyama/concept/>

（２）当日の様子

京都市国際交流会館が観光名所に囲まれ、交通の利便性も高い立地にあることを知ることができ、また、京都のお惣菜をバランスよく提供する定食を美味しくいただきました。



東山・蹴上エリアに位置する



「一汁三菜」をテーマとした定食

■訪問地④ 疏水記念館、蹴上インクライン

（１）疏水記念館について

疏水記念館では、琵琶湖疏水という一大プロジェクトの計画と計画を実現するために尽力した人物たちを紹介しています。まず、琵琶湖疏水建設にまつわる人々の情熱や苦難に満ちた歴史を映像（30分）を視聴していただき、後ほど投館学芸員による館内ガイドを行います。

＜館内ガイド 第1展示室＞

琵琶湖疏水がどのように計画、建設されたかについて紹介しています。

第3代京都府知事の北垣国道は、未来を見据え、京都を復興させるための一大プロジェクトとして琵琶湖疏水を計画しました。そして技師の南一郎平や田邊朔郎らによって、琵琶湖疏水は実現に向かっていくことになります。

＜館内ガイド 第2展示室＞

京都の人びとが琵琶湖疏水を使ってどのように街を発展させたのかを紹介しています。

明治23（1890）年に完成した第1疏水は、水力発電や舟運など、様々な役割を果たしました。また、明治45（1912）年の京都市三大事業の完成によって、京都は近代都市へと生まれ変わりました。

＜館内ガイド 第3展示室＞

激動の時代から現在、そして未来へと続く疏水の流れを紹介しています。

時代とともに琵琶湖疏水の果たす役割は大きく変化します。鉄道や自動車の発達により舟運が途絶え、人口の増加で田畑が宅地になり、水車小屋も姿を消しました。しかし、琵琶湖疏水は今も水道の原水を運ぶほか、水力発電などに使用され、京都市民の生活を支えています。

＜参考URL＞

◆琵琶湖疏水記念館

<https://biwakososui-museum.city.kyoto.lg.jp/>

（２）蹴上インクラインについて

琵琶湖第一疏水の舟運ルートでは、蹴上船溜りと南禅寺船溜りの間の落差が大きいため、台車に船を載せて電力により上下させるインクラインで運行していた。

（３）当日の様子

疏水建設の経緯が良く理解でき、屋外展示の水力発電の機械も見ることができました。



疏水記念館での学芸員による館内ガイド



蹴上インクラインの現地視察

■訪問地⑤ 平安神宮

（１）平安神宮神苑の自然について

神苑の面積の約 1 万坪（33,000 m²）の杜の中には、造られてから 100 年余りという歴史にもかかわらず、さまざまな自然の生命が息づいています。特に鳥類は年間を通じ 50 種類余りが訪れ、都市の中での楽園となっています。

（２）平安神宮と琵琶湖の生きもの

神苑の 4 分の 1 を池が占めています。池の水として琵琶湖疏水からの水が引き込まれた結果、琵琶湖の淡水魚や貝類が入り込み、失われつつある琵琶湖の生態系が池に陸封されています。

池の中には、ニゴロブナ、タナゴ、モロコ、ヨシノボリなどの魚類や両生類、特に失われつつあるタナゴやシジミが多く生息しており、「ミニ琵琶湖」と呼ばれるなど注目を集めています。

〈参考 URL〉

◆平安神宮 ホームページ 「平安神宮神苑 自然の煌めき」

<http://www.heianjingu.or.jp/shrine/natural.html>

（３）平安神宮のイチモンジタナゴ復活の取り組み

琵琶湖ではほとんど姿を消したイチモンジタナゴが神苑の池で生き残っていることが 1980 年代に市民グループの調査でわかりました。その後、2013 年にはイチモンジタナゴの個体が採取できず、専門家の話によると、「池にヘドロが積もり、卵を産み付ける二枚貝が減った」という指摘を受けました。池底からヘドロを取り除かなければなりません、ヘドロ処理にかかる費用は 1 億円ということがわかりました。その後、2019 年にある企業がヘドロの浚渫工事を奉納してくださることになり、その年の秋に工事が完了しました。その後は二枚貝が戻ってくることを期待し、博物館で系統保存しているイチモンジタナゴを里帰りさせています。最終的には神苑の池でイチモンジタナゴを増殖させ、野生復帰を目指しています。

現在も、博物館、動物園、自然保護団体、大学、企業などから協力をいただきながら進めています。

（４）当日の様子

実際にイチモンジタナゴの保全をされている平安神宮の宮司さんから直接お話を聞くことができ、また、神苑の池やイチモンジタナゴを現地で見ることができました。



イチモンジタナゴが生息する池



池に仕掛けている調査用のもんどり（イチモンジタナゴ、ヌマムツ、モツゴなど）

関西広域連合環境保全局

令和2年度「関西の活かしたい自然エリア」エコツアー体験学習

アンケート結果

【実施日】 令和2年 11月27日(金)

【回答数】 参加者 11 名分

アンケートの設問内容について

2020年11月27日（金）に実施したエコツアー体験学習の終了後に、参加者に対してアンケートを行った。その設問内容を以下に示す。ただし、Q4～Q6の設問は、旅行事業者など地域のツアープランナーとなる参加者のみ、Q7とQ8の設問は自然系団体や企業、自治体の研修担当者のみを対象にした設問である。

アンケートの回答人数は、11名分（うち旅行業関係者5名分）である。

Q1) 所属先・氏名

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について（4段階評価）

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満

Q3) エコツアー体験学習で良かった内容とその理由

Q4) 今回の訪問地およびコンテンツの事業や旅行商品等への取り入れの可能性について（4段階評価）

4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

Q5) 本エコツアーが一般の旅行であった場合の最高販売価格（JR京都駅発着とする）

Q6) 地域の自然資源をツアー等に取り入れる場合の課題について（日本人旅行者、訪日外国人旅行者のそれぞれを対象とした課題と、両者に共通する課題）

Q7) 今回の訪問地およびコンテンツの社内研修への取り入れ可能性について

4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

Q8) 地域の自然資源を社員研修に取り入れる場合の課題について

Q9) エコツアーを実施する際に重視する要素（食事、文化、景観、非日常の体験、自然観察、知的好奇心、その他）

Q10) 自由記入欄（ご感想、提案、アイデア等）

アンケートの結果について

設問に対する参加者の回答結果を以下に示す。Q2 と Q4 は訪問地ごとの設問となっているため、記載順が設問時のアンケート用紙とは異なる。また、アンケートの意見に関して、原文を尊重して記載した。

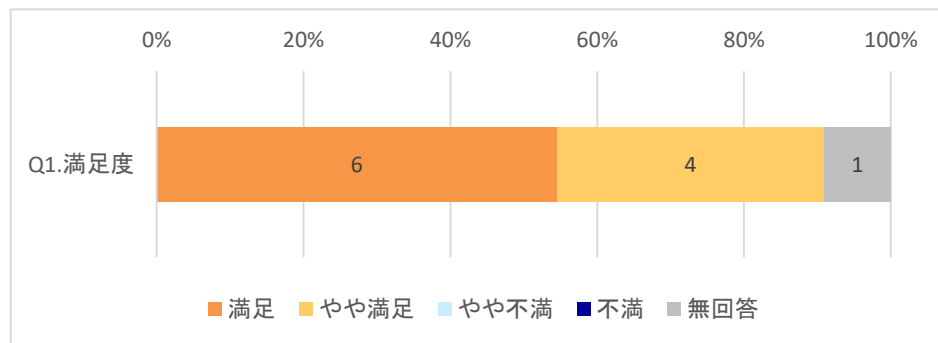
■訪問地① 琵琶湖博物館

滞在時間：90 分(9:40-11:10)

内 容：滋賀県におけるイチモンジタナゴの保全活動の解説と企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち」から滋賀県及び日本、世界の種の保全の取組の紹介。

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について（4 段階評価）

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満



※グラフ内の数値は回答者数、以下同様。

「満足」と回答した方の理由・意見

- とってもわかりやすく生態系のことを聞くことが出来た。何度も行っているが本日は改めて素晴らしい博物館であることが判った。(旅行業)
- イチモンジタナゴの系統保存の重要性と保全の位置付けなどを知ることができた。(旅行業)
- イチモンジタナゴの域外保全をはじめとした保全活動が印象に残った。また、展示の仕方(見せ方)についても勉強になった。(行政関係者)

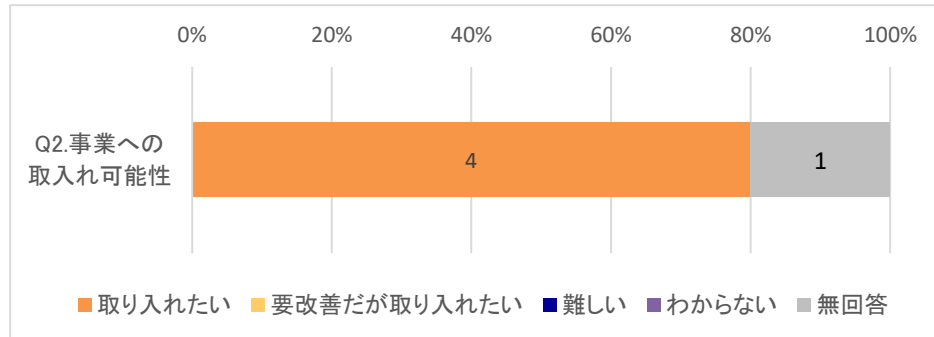
「やや満足」と回答した方の理由・意見

- 企画展示や希少種保全の取組、琵琶湖固有種など見所が多く楽しめたが、もっと時間をかけて見たかった。(行政関係者)
- 淡水魚について詳しく聞けて良かった。リニューアル部分もゆっくり見られると良かった。(自然系団体関係者)

Q4) 事業や旅行商品等への取り入れの可能性について(4段階評価)

- 4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・見学は博物館だけで半日位かかるのでもっと時間をかけてガイドをして欲しい。

「要改善だが取り入れたい」と回答した方の理由・意見

なし

「難しい」と回答した方の理由・意見

なし

「わからない」と回答した方の理由・意見

なし

○まとめ

- ・体験、見学した内容に関する満足度としては、「満足」と「やや満足」が合わせて90%以上となった。
- ・事業への取り入れ可能性については、「取り入れたい」が5名中4名、無回答が1名となり、旅行業者にも好評であった。
- ・イチモンジタナゴの保全活動を通じて、系統保存や保護増殖、生息域外保全、再導入など、保全方法の一連の流れについての解説が好評だった。
- ・全体的に、もう少しゆっくり学芸員の解説を聞きながら展示を見たかったといった意見が見られた。

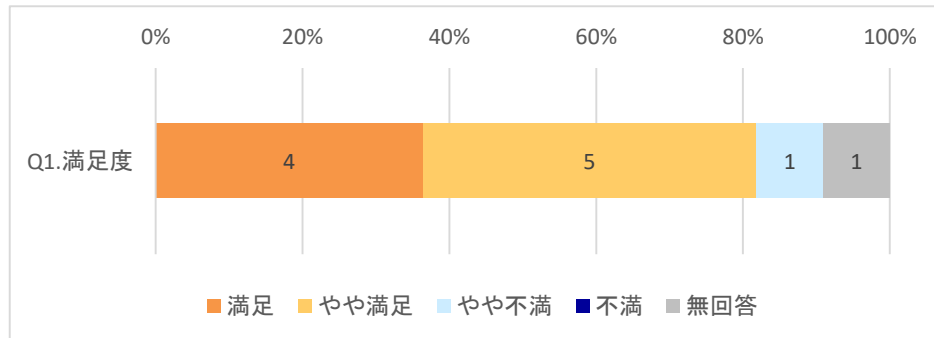
■訪問地② 琵琶湖疏水

滞在時間：35 分(11:40-12:15)

内 容：琵琶湖第一疏水取水口から鹿閑橋までの区間を視察。取水システムと外来種オオバナミズキンバイの対策についての解説。

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について（4 段階評価）

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満



「満足」と回答した方の理由・意見

- ・トンネル部の緻密な勾配や工法の解説がおもしろかった。（行政関係者）
- ・オオバナミズキンバイとイチモンジタナゴの比較（疏水が良かったこととそうでないこと）もよく印象に残った。（行政関係者）

「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・スタート地点から辿れて良かった。一般道のため大人数で歩くことは無理。三井寺とつながっているのがバスに乗るのに良い。（旅行業）
- ・案内が聞こえにくかった。イヤホンマイク等を使った方が良かった。（旅行業）

「やや不満」と回答した方の理由・意見

- ・疏水の利点と外来種の拡散等の問題点が理解できたが、もう少し近い距離で見学をできれば良かった。（行政関係者）

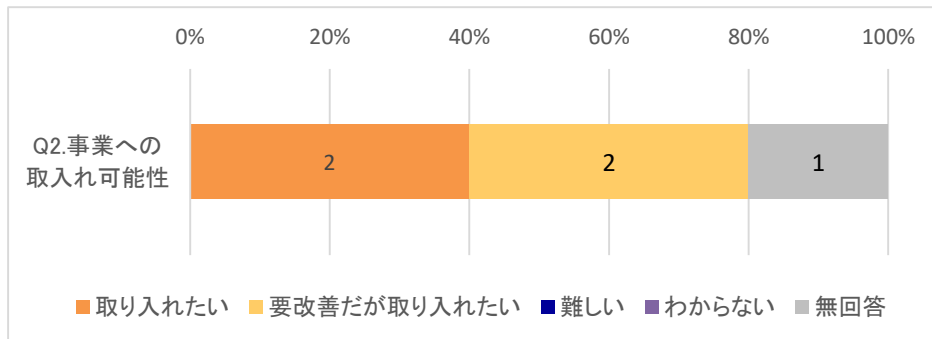
「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q4) 事業や旅行商品等への取り入れの可能性について（4段階評価）

- 4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・ 疎水通船に乗船したかった。浜大津から疎水沿いを京都まで歩くツアーも良い。

「要改善だが取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・ 三井寺との組合せての訪問も良い。

「難しい」と回答した方の理由・意見

なし

「わからない」と回答した方の理由・意見

なし

○まとめ

- ・ 体験、見学した内容に関する満足度としては、「満足」と「やや満足」が合わせて80%以上となり、ほとんどの参加者が満足する内容であった。
- ・ 事業への取り入れ可能性については、5名中4名が「取り入れたい」と「要改善だが取り入れたい」となり、旅行業者に好評であった。
- ・ 疎水によってイチモンジタナゴが拡散し保全につながったこと、また外来種オオミズキンバイが拡散し問題になっていること、2つの相反する結果が印象に残ったという意見があった。

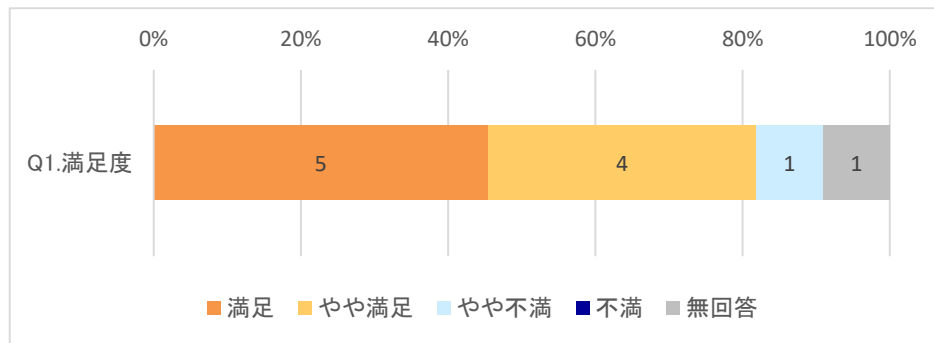
■訪問地③ 昼食（東山和み館 玄）

滞在時間：120 分(12:30-13:20)

内 容：京都のお惣菜をバランスよく提供する定食等。

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について（4 段階評価）

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満



「満足」と回答した方の理由・意見

- ・美味しかった。（自然系団体関係者）

「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・とても美味しかったが、疏水と関係のある食材（料理）があれば良いかと思った。（行政関係者）
- ・味、量ともに満足できたが、食材の説明等が欲しかった。（行政関係者）

「やや不満」と回答した方の理由・意見

なし

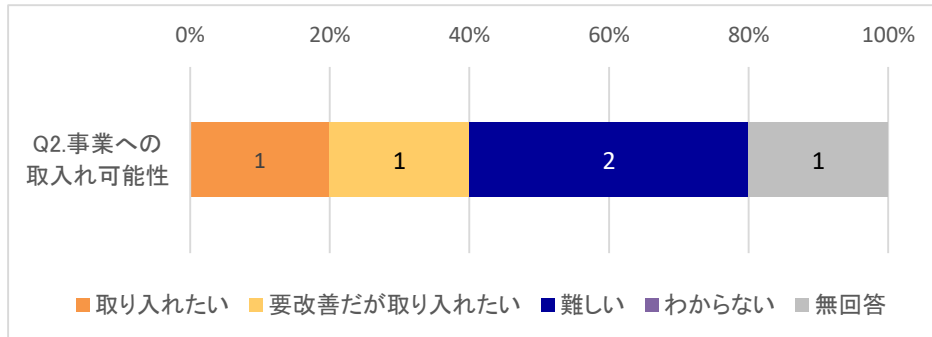
「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q4) 事業や旅行商品等への取り入れの可能性について（4段階評価）

- 4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・昼食をメインにするなら京料理とか湯豆腐等も良い。

「要改善だが取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・京都では当たり前かもしれませんが大型バスは乗降のみで駐車できない。食事が美味しかったので利用したい。

「難しい」と回答した方の理由・意見

なし

「わからない」と回答した方の理由・意見

なし

〇まとめ

- ・体験、見学した内容に関する満足度としては、「満足」と「やや満足」が合わせて80%以上となり、ほとんどの参加者が満足する内容であった。
- ・事業への取り入れ可能性については、「取り入れたい」または「要改善だが取り組みたい」が5名中2名、「難しい」が2名となり、事業としての取り組みは難しいと考える旅行者が多い傾向が見られた。
- ・定食自体の味、量、見た目などは好評であった。

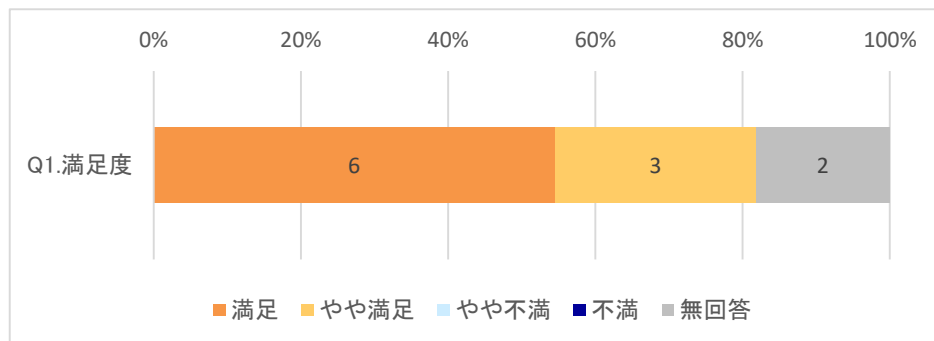
■訪問地④ 疏水記念館

滞在時間：70分(13:50-15:00)

内 容：疏水が京都の近代化に果たした役割や疏水建設に関わった人物、疏水関連施設についての解説。

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について(4段階評価)

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満



「満足」と回答した方の理由・意見

- ・展示は一大事業がわかりやすく説明されており、野外にも出れて実際の水の道や流れが見れるところがとても良かったです。(旅行業)
- ・ガイドをして下さった方が良かった。(行政関係者)

「やや満足」と回答した方の理由・意見

- ・名前は知っていたが疏水についての詳細が聞けて良かった。(自然系団体関係者)
- ・疏水建設の経緯が良く理解できた。野外の見学場所も、もう少し見ることができれば良かった。(行政関係者)

「やや不満」と回答した方の理由・意見

なし

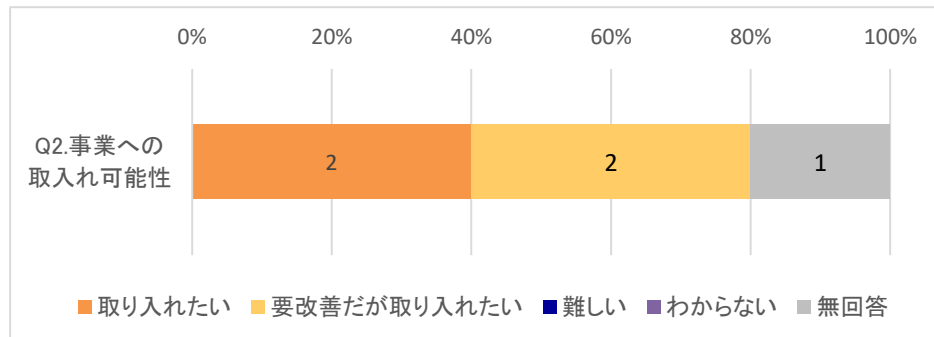
「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q4) 事業や旅行商品等への取り入れの可能性について（4段階評価）

- 4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

- ・無料で見応えがあった。

「要改善だが取り入れたい」と回答した方の理由・意見

なし

「難しい」と回答した方の理由・意見

なし

「わからない」と回答した方の理由・意見

なし

○まとめ

- ・体験、見学した内容に関する満足度としては、「満足」と「やや満足」が合わせて80%以上となった。
- ・事業への取り入れ可能性については、「取り入れたい」または「要改善だが取り入れたい」が5名中4名となり、旅行業者にも好評であった。
- ・「疏水」は知っていたが、改めて事業の詳細を理解することが出来て良かったといった意見があった。

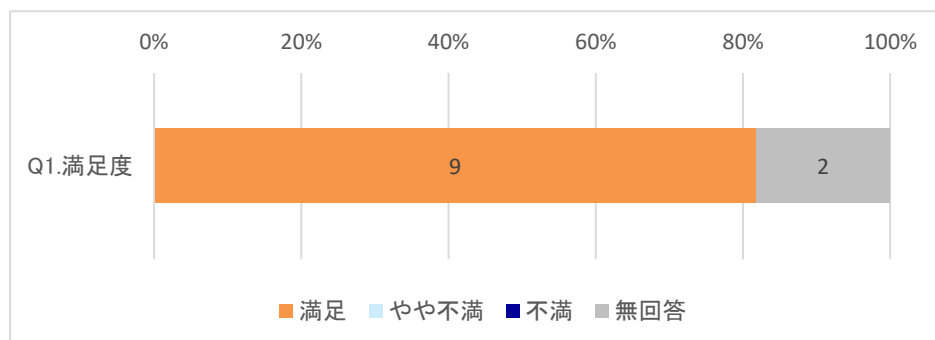
■訪問地⑤ 平安神宮

滞在時間：70分(15:30-17:15)

内 容：平安神宮神苑の池に生息するイチモンジタナゴの増殖などの保全活動の解説と生息地の見学。

Q2) 本ツアーの各訪問地の満足度とその理由について(4段階評価)

4・・・満足、3・・・やや満足、2・・・やや不満、1・・・不満



「満足」と回答した方の理由・意見

- ・解説者(宮司さん)のお話が全て新鮮だった。生物に関するご知識も深く感銘を受けた。
(旅行業)
- ・実際にイチモンジタナゴの保全をされている方のお話が興味深かったです。(自然系団体関係者)
- ・保全活動の実地を見れて良かったです。(自然系団体関係者)
- ・周辺の生物多様性が豊かであることと、イチモンジタナゴ保全への熱意が印象に残った。
(行政関係者)

「やや満足」と回答した方の理由・意見

なし

「やや不満」と回答した方の理由・意見

なし

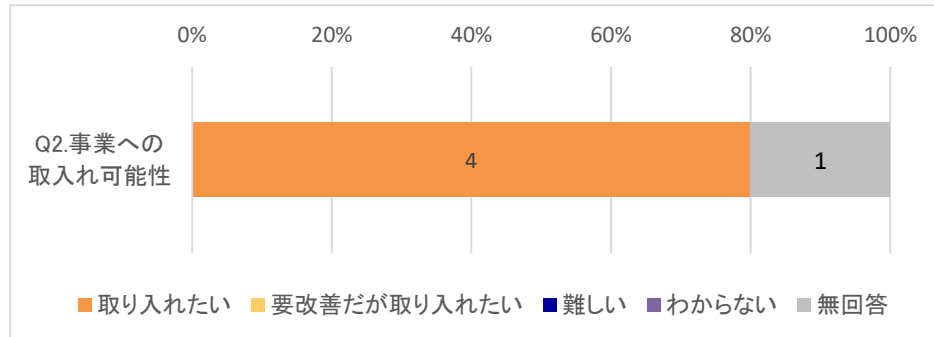
「不満」と回答した方の理由・意見

なし

Q4) 事業や旅行商品等への取り入れの可能性について(4段階評価)

4・・・取り入れたい、3・・・要改善だが取り入れたい、2・・・難しい、
1・・・わからない

※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



「取り入れたい」と回答した方の理由・意見

・季節の花の綺麗な時期に広い庭園を組み込みたい。

「要改善だが取り入れたい」と回答した方の理由・意見

なし

「難しい」と回答した方の理由・意見

なし

「わからない」と回答した方の理由・意見

なし

〇まとめ

- ・体験、見学した内容に関する満足度としては、「満足」と「やや満足」が合わせて80%以上となった。
- ・事業への取り入れ可能性については、「取り入れたい」が5名中4名となり、旅行業者に特に好評であった。
- ・疏水によって平安神宮神苑の池にイチモンジタナゴが残っていたこと、専門知識を持って保全し続けられていること、そして解説者(宮司さん)の多方面に渡るネットワークにより、保全活動が企業や大学などに広がっていることなどのストーリーが参加者にうまく伝わり、好評であった。

Q3) エコツアー体験学習で良かった内容とその理由

◆説明・解説方法が良かった

- ・知らないことを知る楽しさを味わえた。今まで気にとめていなかったことを意識するきっかけになった。(旅行業)
- ・貴重なお話が聞けたこと。琵琶湖と京都のつながりが大変興味深かった。(旅行業)

◆生物多様性の保全について実感できた

- ・琵琶湖から京都まで連続的に見ることで、広域で自然保全に取り組む重要性が実感できて満足だった。もう少し見るものを絞ってゆっくり質問などできるとさらに良いと思った。(自然系団体関係者)

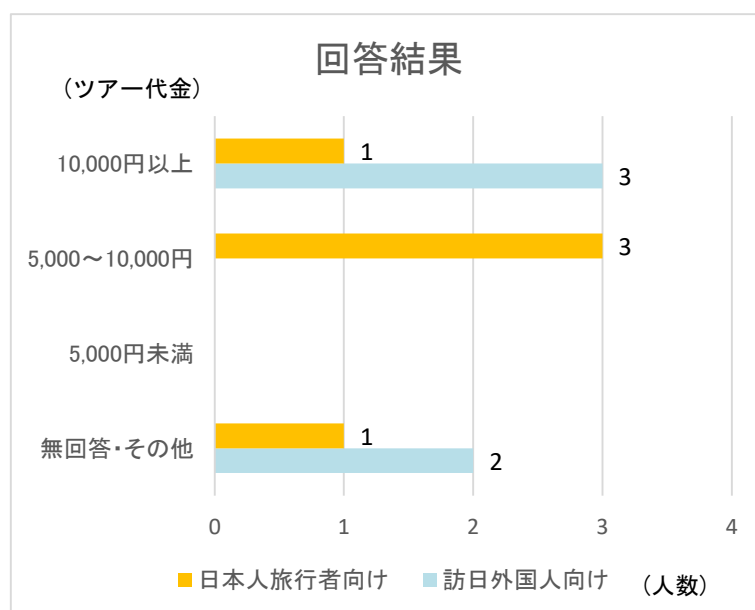
◆テーマを絞った内容が良かった

- ・イチモンジタナゴが、琵琶湖から疏水に流れ、平安神宮の池に生息することが興味深く、よくわかった。(旅行業)
- ・琵琶湖疏水という1つのテーマに絞っていて、水の流れと同じ順で巡っていくところが観光の視点で見てもおもしろかった。(旅行業)
- ・疏水というテーマを通じて、琵琶湖の水が今の京都に無くてはならないものであり、生物多様性の豊かさにも寄与していることが理解でき良かった。(行政関係者)
- ・普段の観光ではここまで詳しく勉強することがないので、深く知れて良かった。イチモンジタナゴと疏水というテーマで広域（滋賀と京都）をめぐるという視点がおもしろい。(行政関係者)
- ・テーマを絞っているので内容が明確で良かった。琵琶湖博物館の展示内容が素晴らしいです。(行政関係者)
- ・テーマが一貫していて内容が分厚かった。(自然系団体関係者)

◆エコツアーや研修等のコンテンツとして

- ・とても興味深い一日でした。人が動植物と共存していることを実感する貴重な体験ツアーとして作っていく事ができるか検討したい。(旅行業)

Q5) 本エコツアーが一般の旅行であった場合の想定最高販売価格（JR 京都駅発着として）
※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問



○まとめ

- ・今回は日帰りのエコツアーであり、旅行事業者の方々は、日本人向けは1人あたり5,000円～10,000円前後、外国人向けは1人あたり10,000円以上の代金を意識されたという結果が出た。

Q6) 地域の自然資源をツアー等に取り入れる場合の課題について（日本人旅行者、訪日外国人のそれぞれを対象とした課題と、両者に共通する課題）
※旅行事業者や地域のツアープランナーの方への質問

◆日本人旅行者向け

- ・知的好奇心の呼び起こしの方法と切り口。難しくなり過ぎず、身近なものとしての捉え方。
- ・的確な情報の伝達。説明の仕方。価格と価値。
- ・宣伝方法。

◆訪日外国人向け

- ・販路。外国の人は基本的にはツアーに参加する場合の下調べをして来日されるので情報発信に関してはやりやすいが、専門用語の通訳の確保といった問題がある。

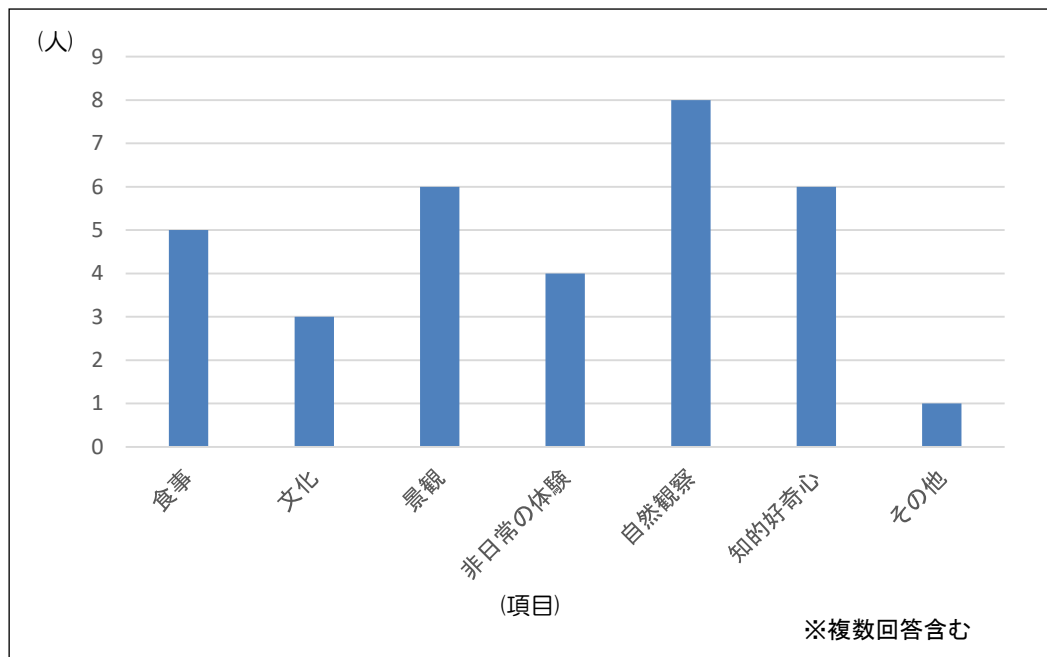
◆共通課題

- ・「自然」という価値観をどうツアーに反映させるか。
- ・ターゲットになるお客様に広告する方法と経費。

○まとめ

- ・日本人旅行者は、参加者に対してこういった切り口で「エコツアー」を説明し、宣伝するかが課題となる意見が見られた。
- ・訪日外国人は、販路と専門用語の通訳の確保が課題となる意見が見られた。
- ・共通課題は、参加者に対して「エコツアー」であるということを如何に伝達し、価格や価値に対して理解を得ることが出来るか、その広告方法と経費の捻出が課題となる意見が見られた。

Q9) エコツアーを実施する際に重視する要素（食事、文化、景観、非日常の体験、自然観察、知的な好奇心、その他）とその理由



◆「文化」を重視するコメント

- ・その場所の歴史を知ることと自然（保全の現場なども）を見ること。（行政関係者）

◆「非日常の体験」を重視するコメント

- ・普段立ち入れない場所や本日の宮司さんの話のような特別感。より強い興味が湧くと思う。人間の文化や生活も自然と深く関わっていることを認識できると思った。（旅行業）

◆「自然観察」を重視するコメント

- ・保全して活用すべきものが、こんな場所にもあると言う事を伝えて、興味を持ってもらう事。（自然系団体関係者）
- ・自然保護に取り組む団体構成員の高齢化もあり、自然に興味のある人材を育成するためにも特に自然への関心を高める要素を重視する。（行政関係者）

◆「知的な好奇心」を重視するコメント

- ・展示の手法や説明のノウハウが見られ、研修には良いと思った。説明を聞かないと気が付かないような内容だと参加しがいがあると思った。（自然系団体関係者）

◆「その他」を重視するコメント

- ・弊団体の場合は「里山」が主題にあるので、主題に沿った内容や沿った時期であることを重視している。（自然系団体関係者）

〇まとめ

- ・グラフでは「自然観察」を重視する参加者が最も多く、次いで「文化」や「非日常体験」、「知的好奇心」を重視する意見が多かった。
- ・また、これらの項目を重視するコメントに共通して見られるのは、解説者の存在がエコツアーの場の促進に大きく寄与し、エコツアーの価値を高める一端となっていることが伺える意見が多く見られた。

Q10) 自由記入欄（ご感想、提案、アイデア等）

- 化学と歴史のうまい組合せ。自然の大切さと保全の訴えの表現。（旅行業）
- 大変有意義なプログラムでした。琵琶湖の生態系を京都がつながっている。もっと広く広めていきたいプログラムと感じました。（旅行業）
- 一日の体験として内容が濃かった。（自然系団体関係者）
- とても充実した一日でした。少し詰めすぎて1つ1つの時間が説明で一杯になってしまったことがやや残念です。もう少し時間があると良かったです。（自然系団体関係者）
- 少人数でのツアーなので、さらっとでも自己紹介があると良いと思った。参加者の方からも様々なお話がきけて有意義な一日でした。（自然系団体関係者）
- コロナ対策が必要な中、実施お疲れ様でした。体験等の要素があればより良かったです。（行政関係者）
- バスガイドはいらないかな。（行政関係者）